



## 働くということ、 学ぶということ

1981年にイギリスから独立したジンバブエは、

南部アフリカ随一の教育水準の高さを誇ってきた。教育の質がどの程度のものであったかはわからないが、識字率は95%を超え、就学率も高い数値を記録した。しかしながら、政治的・経済的混乱が教育システムにも大きく影響していた。2008年2月、学生は交通費がないため、片道2時間ほどの距離を毎日歩いて通学してきた。大学とはいえ、学生の多くは既婚者であり、家族の食糧を確保するために、講義を遅刻・欠席することが少なくない。これは講師にも同じであった。農業に専念するため、急に1~2ヵ月の休暇を取ってしまうことや、銀行に行くために講義をほったらかしにしてしまうこともあった。大切なミーティングの最中に、お腹がすいた、と席を立っていく講師もいた。政治・経済の不安定さが、人々の働く意欲や学ぶ機会を奪っていた。

青年海外協力隊としてジンバブエに派遣されていた岡部史織さんのエッセイです。  
現在、ジンバブエの状況は改善されています。

平成20年度国際ボランティア貯金寄附金援助事業  
【知的障がい者のための地域に根ざした家庭菜園活動による自立促進支援事業】

事業の進捗状況

2009年8月の家庭菜園訓練開始から約6ヶ月が経過しました。そこで、受益者の家庭を訪問し、訓練で得た知識や技術が各家庭でどのように活かされているかを視察してきました。

私たちスタッフが訓練終了後に家庭訪問をするのは、家庭菜園の様子を視察するとともに、家庭菜園の実践によって受講者にどのような変化が現れているかを調査するためです。受講者は訓練中にカウンセリングを受けます。ここでは、「自分で服を着ることができる、アイコンタクトができる、返事ができる、人や物の名前を覚えられる」といった日常行動レベルがチェックされます。それをもとに、訓練修了後の家庭訪問でカウンセリングが行われます。

今回訪問したのは、タリドゥくん(12歳)。私たちが到着した途端、ドライバーのシシラさんに向かって「シシラさん、こんにちわ!!」と元気なあいさつをしてくれました。訓練から約6ヶ月が経つにもかかわらず、タリドゥくんはドライバーの名前を覚えてくれていました。これにはタリドゥくんのお父さんとお母さんも驚いていました。プロジェクト・アシスタントも「やったね、タリドゥ!!」と嬉しそうです。

また、ボタンを掛け違わなくシャツを着ることもできました。家庭菜園訓練で指導が行われる前は、着替えには必ずお母さんの手助けを必要としていたタリドゥくんが、今は一人で服を着ることができます。お母さんももう安心です。これも合宿型訓練の成果であったようです。

タリドゥくんは訓練中、人の言うことを聞けなかったといいます。しかし今回の家庭訪問では、プロジェクト・アシスタントが名前を呼べば返事をし、質問をすればそれに答え、指示をすればそれに従うという姿を目にすることができました。カウンセリングの間、始終手足を動かして少々落ち着きのないタリドゥくん。それでも、タリドゥくんの成長ぶりを見て、落ち着いて人と話せるようになる日も確実に来るだろう、と感じられました。少しずつ、でも着実に...そんな明るい期待と共に、タリドゥくんの家庭訪問は終わりました。

**事業概要**

家庭菜園活動を通じて知的障がい者の自立支援活動のプログラムの開発および専門指導員の育成を実施。

- 1) 専門指導員養成コースプログラム開発と指導者育成
- 2) 専門指導員による障がい者への園芸指導
- 3) モデル家庭菜園の設置

事業概要: 2009年4月~2010年3月  
対象地域: ゴール県  
(アクメーマナ・ゴールフォークラベッツ・イマドウワ・ハバラドウワ)  
対象者: 上記地域の知的障がい者とその保護者約400名



スリランカ滞在記 大統領選挙  
岡部史織

私は、国際協力機構(JICA)のNGO活動支援プログラムを利用し、アムルトジャパンにてインターンをしています。今回は、活動中1ヶ月間滞在したスリランカで見た「大統領選挙」についてご報告いたします。

真冬の日本から飛行機で10時間弱。降り立ったスリランカには暑い夏の空気が漂っていました。1月26日に大統領選挙を控えたスリランカでは、街中いたるところで候補者のポスターを見ることができました。なんとと言っても今回の選挙、立候補者が20名を超えるパワフルなもので、選挙活動はどんどんヒートアップし、叫びのようなスピーチが夜中11時半まで続くこともありました。オフィスでも毎日選挙の話題で持ちきりでした。それぞれが、自分の支持する候補者について熱く語り合う様子を見て、人々の政治への関心の高さをうかがうことができたとともに、自由と安全を感じました。

かつて私が滞在していたジンバブエでは、人々が政治について語ることは危険行為であり、政治的な議論はおろか、大統領の名前を出すことにさえ慎重さが求められました。秘密警察や密告者の存在を常に気にかけていたためです。

2つの国の大統領選挙を目にして、自国のトップを決める選挙にける人々の想いにはどこか共通するものを感じました。それでもその想いを自由に、躊躇なく、また身の危険を感じることなく語れるスリランカで、選挙のあるべき姿を見たように思います。2010年1月、今後何年かこの国を率いる大統領として、現職のマヒンダ・ラージャパクシ氏が再選しました。



大人が集まれば選挙の話



街のいたるところに候補者のポスター



選挙が終わって、大統領決定

アムルトスリランカの職員

Chamila Livera Project Manager

知的障がい者のための地域に根ざした家庭菜園活動による自立促進支援事業は2009年4月より行われています。対象となるのはゴール県の4つの地域(アクメーナ、ゴールフォークラベッツ、イマドゥワ、ハバラドゥワ)で生活する200名の知的障がい者とその保護者です。

このプロジェクトはヘラビーム・スリランカ、アムルトスリランカ、そしてアムルトジャパンの協同によって企画されました。プロジェクトは、知的障がい者が家庭菜園活動を行うことによって、集中力、興味・関心、感情のコントロール、情操、社会性、協調性、技術の習得力、そして身体の健康などを高めることを目指しています。また、家庭菜園活動を通して、知的障がい者の自立を目指す新しい試みでもあります。ヘラビームにおける5日間の宿泊訓練には彼らの保護者も参加することになっており、参加者は家庭菜園での技術を習得するとともに、仲間と交流し、それぞれの自立を促す指導を受けます。このため、これまでに知的障がい者に手を貸しすぎていた保護者も、彼らの自立への可能性を見出すことができます。また、スネラ・ファンデーションによって行われている社会心理プログラムや農業省によって実施される事業も紹介されます。さらに、アムルトでは保護者との話し合いを行い、彼らの意見を直接聞くことを心がけています。

このプロジェクトは現地スタッフが知的障がい者と関わるきっかけにもなっています。特色あるこのプロジェクトを6人のメンバーで実行することは、大きな挑戦でもありましたが、スタッフの献身的な取り組みによってプロジェクトは成果を収めています。また、ヘラビーム・スリランカ、農業省、スリランカ農業学校、アンゴダ・メンタル・ホスピタルの療法士、スネラ・ファンデーション、サヴィヤ開発基金、そして政府の少年保護施設からの協力を得て、プロジェクトが実施されています。

このプログラムに参加し、ヘラビームにて多くを学んだ保護者からは、このプログラムがこれまでのどの訓練よりも効果的であったとのコメントをいただきました。このように、5日間の訓練の終了時にはいつも、保護者からの感謝の言葉を聞くことができます。



Nishantha Walakulage  
Project Assistant



私は津波の直後から、多くのプロジェクトに携わり被災者救援活動を行ってきましたが、現在はこれまでとは異なる喜びを感じています。それは、プロジェクトに関わりながら、自分自身の成長を感じるとともに、社会的な責任を果たしている実感があるからです。小さなグループではありますが、これまでに実施された活動や現在進行中の活動に対して、誇りを感じています。

Terrance Silva  
Field Supervisor



私たちは、知的障がいのために社会の役に立たないと考えられている子どもたちに対して、社会への順応を目指した訓練を行っています。これまでのプロジェクトによって、子供たちの心身の健康改善がなされました。また、障がい児を持ったことによるストレスや周囲からの偏見に悩んでいた保護者も、そういった苦悩への対処法を学ぶことができました。この訓練は、障がい児を保護するとともに、彼らが家族の一員として役割を果たすことを可能にするでしょう。

G.A.T.Harindi  
Project Officer



私はこれまで、訓練に携わる機会は少ないものの、ヘラビームを訪問するたびにこのプロジェクトの一員であることを誇りに思います。訓練では知的障がいを持った子どもの保護者に対して、子どもとどのように接したらよいのかを考える機会を与えます。そして、子どもに対する保護者の気持ちや接し方が変化し、子供たちの心身の成長をうながします。私は、アムルトが他の地域でも同様のプログラムを実施し、社会的に弱い立場にある知的障がい児とその保護者への支援を継続すべきであると考えます。

Sisira Kumara Jayawardena  
-Driver



私は訓練を通して、子どもとその保護者の様子が確実に変化している様子を目の当たりにしました。親子の距離がどんどん縮まり、子どもが母親の言葉に耳を傾けるようになっていきました。そして、保護者がお互いに気持ちを語り合うことで、悲観的な考え方を換え、子どもへの接し方を改めることができました。何よりも大切なのは、子供たちが訓練に集中し、楽しみながら学べたことだと思います。



JICA 草の根技術協力事業  
 タウア州ブザ県村落部における  
 乳幼児健康改善のための保健衛生教育および生活改善モデル事業

事業概要

事業期間: 2009年7月1日より 24ヵ月間  
 対象地域: ニジェール共和国、タウア州 ブザ県内の3コミュニティ内10村落  
 対象者 : 対象地域内の乳幼児(5歳未満) 約750人とその母親500人  
 現地カウンターパート: アムルトインターナショナルニジェール

活動内容

講習会活動に参加した母親の家庭における乳幼児の健康状態が向上することを目標に下記の活動を行います。

保健衛生・栄養啓蒙活動を自主的に運営できるヘルス・トレーニンググループの育成

母親や女性たちへの保健衛生・栄養指導

保健衛生・栄養改善活動に必要な経済基盤への支援



事業の進捗状況

ここニジェールでは乾季の真っ最中でハルマツタンと呼ばれる季節風が吹き、毎日砂漠の砂を巻き上げています。おかげで町中ほこりっぽく、空の色も赤茶けています。5月下旬からの雨季が待ち遠しいところです。

さて、今回はニジェール Tahoua 州の Bouza で始まったプロジェクトについて報告します。アムルトジャパンでは2009年7月より、Bouza の10ヶ村で500名の栄養失調の子供を持つお母さんを対象に、子供たちの健康改善のために、保健衛生・栄養教育および生活改善モデル事業を実施しています。

このプロジェクトでは、各村で母親リーダー2名、産婆さん1名、保健所の看護師長計4名からなるトレーニンググループ (Health Training Group) を結成し、彼女らが自分たちで衛生や栄養知識の啓蒙を研修・実施・指導できるように研修し、実際に村の女性たちへの研修も彼女たちが主体となって実施するよう指導しています。これまでに水や食べ物、衣服や住まいの衛生改善、また食品の栄養などの講習を開催しました。また講習だけでなく、水をろ過してきれいにする方法や、栄養ある離乳食の作り方なども実習し、村のお母さん方にデモンストレーションしています。最初は人前で講習するなんて、と恥ずかしがっていたお母さんも、回を重ねるにつれてどんどんパフォーマンス力が上がり、堂々としてきました。参加するお母さんたちも、質問に積極的に答えるなど、熱心に研修に参加しています。研修のあとは、家庭での実践を期待して、水ろ過用フィルターや手洗い石鹸、離乳食用の豆粉などを配布し、お母さん方に喜ばれています。このように定期的に講習会とレビュー講習会を開催することにより、アムルトジャパンでは彼女たちへの衛生・栄養知識の定着を図っています。レビュー講習会では、講習会の復習をクイズ形式で行い、正解がきちんと出来たお母さんには石鹸などのささやかな賞品が貰えるようにしたところ、お母さんたちのやる気に火がついたようで、皆さん競って正解を答えています。

研修のあとは学んだことが家庭できちんと実践できているか、トレーニンググループによる家庭訪問も始まっています。家庭訪問時には、家の周囲、部屋の中、炊事場、トイレ、家畜小屋などが



タボエ村での研修風景  
 「人前で講師をするのはなかなか恥ずかしいわ...」と言いつつもいざ始まると堂々とした話しぶり。お母さん方もなんと全員出席。



研修では汚れた水をろ過してきれいな水にする方法も実演。

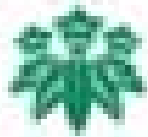
整頓されているか、子供たちの身なりがキチンとされているか、栄養状況はどうかなど、細かくチェックし、なおかつ研修で学んだことについて質問して的確に答えられるかも評価しています。毎月十数件を家庭訪問し、訪問したなかで最も素晴らしく実践しているお母さんを「母親の女王さま」と名づけて表彰することにしました。毎月のこの家庭訪問と表彰がお母さんたちの楽しみになっており、これから家庭訪問を待つお母さんたちは皆さん競って家の周りをキレイにして「早くうちを見に来て！」と待ちわびている様子です。こういった研修をきっかけに、自分や子供たちの衛生環境・栄養について知識を深めてもらい、暮らしが少しずつでも改善されていくのを見るのは現地駐在員として何よりも嬉しいです。

2009年11月より、ニジェール北部と西部ではアルカイダの活動が頻発し、現在にいたるまで Tahoua 州への日本人の移動は制限されています。この状況下では簡単には現地に入れず、11月以降は電話やメールで現地のスタッフとやりとりしながらの事業モニタリングが続いています。早く平和になって自由に村に入れる日が来ることを願っています。

報告者: ニジェール プロジェクトマネジャー 大前 加陽子



母親の女王様



## (財)日本国際協力財団助成事業 ニジェールの母親たちによるモデル集団農業の運営

ニジェール共和国は世界最貧国のうちのひとつに数えられ、2009年国連開発計画が発表した「人間開発報告書」の「世界で最も住みやすい国ランキング」では世界177カ国中の最下位、世界で最も住み難い国とランクされました。ティラベリ州ワラム県はニジェール北西部に位置し、ニジェールの中でも特に気温が高く乾燥が厳しく、農作物の収量が低く貧しい地域です。そのため多くの男性は他国へと出稼ぎに出かけ、あとに残された女性、老人と子供たちが村の生活を守っています。そんななかで、この状況を打破するため、自分たちで野菜を栽培し収入の足しにしようとする母親たちも現れてきています。しかしながら技術も種も道具も不足する中で野菜栽培には困難も多く、軌道に乗るまでには至っていません。アムルトジャパンでは、2009年8月から日本国際協力財団の支援を受け、村の母親たちを組織化し、野菜栽培技術の指導、野菜の種、農機具と灌漑井戸、水汲み用のモーターポンプの提供を企画し、彼女たちの生産活動を多角的にサポートし始めています。

まず最初に野菜栽培への関心が高い3村(ワラム地区のダレデ村、トンディキウィンディ地区のザラババコアラ村、ダウダコアラ村)を選定、事業説明からスタートです。特にトンディキウィンディの2村はかなりの僻地で道なき道をひたすら進んで到着。当地にNGOがやってきたのは初めてということもあり、大歓迎を受け、農業支援に期待が寄せられました。当事業を各村で説明し、理解を得たうえで、それぞれの村で女性グループを結成し、野菜栽培支援スタートです。共同農園用の農地は市長と村長が中心となって地主と交渉し、乾季のあいだは母親たちに自由に使わせてくれるよう計らってくれました。

共同農園にとって一番心配なのは、放牧した家畜が農園に入ってきて作物を食い荒らすこと。母親たちは、家畜が入ってこないように自分たちでミレットの茎を利用した手作りの柵をこしらえ、家畜の攻撃に備えも万端です。皆の協力で共同農園の場所が整いました。

11月から野菜づくり開始。レタス、トマト、キャベツ、たまねぎ、ピーマン、、、アムルトの農業スタッフが、苗床の準備、水分管理、効率のよい種まきの方法、苗の植え替えの方法、害虫や病気が出たときの自然農薬の使い方などを彼女らに教えていきました。アムルトからの丁寧な指導を受けて実践し「今までと苗の出来が違う!」「教えてくれてありがとう」と母親たちも大喜びです。

当プロジェクトで予想外につまづいている部分は「水」の確保。共同農園の中に井戸を掘る計画が、よく調べてみるとこの地域では適用できない(土に粘土分が多く、透水性が悪い)とわかったことです。事前調査では太鼓判を押されていただけに、いざ掘ってから不可能だと判明し、母親たちも村人たちも、そして私たちも途方に暮れました。しかしここで今まで農園の段取り、柵作り、野菜苗づくりに奮闘してきた村の人たちの期待を裏切るわけにはいきません。計画を見直し、予算はだいぶ高くなりますが近代化井戸(口径の大きな井戸)を掘れば予定の水分は確保できるという現地の井戸専門家の助言により、予定していた簡易井戸8基を近代化井戸3基に減らし、モーターポンプの提供を中止し、その予算を近代化井戸建設費に充てることで予算を工面し、1月に入ってからようやく3村で近代化井戸の掘削を始めました。幸い2月10日現在で、どの井戸からも水が湧いているのが確認され、2月下旬には完成、予定より大幅に遅れましたが3月上旬には井戸の落成式を開催する予定となっています。

### 事業概要

収穫物もしくはその販売にて各母親の家庭の食糧自給が50%向上することを目指し下記活動を行います。

#### 母親グループの組織化と農業トレーニング

母親たちを組織化し、技術と農具、灌漑設備を供給し、収入源にもなる作物を育てるための支援を行う。

事業期間:平成21年8月～平成22年3月

対象地域:ニジェール共和国 ティラベリ州ワラム県のワラム行政区とトンディクウェンデ行政区の計2箇所の農地

対象者:家族の長である母親および女性約80人



母親グループの皆さん

本来 11 月には完成していたはずの井戸建設が遅れに遅れたことで私たちは母親たちに対して、申し訳ない思いでいっぱいでした。それでも彼女たちはガッカリすることもなく引き続き苗の世話をし（毎朝毎晩 1 km 離れた村からバケツで運んできて灌水し続けました！）、井戸の完成を待っています。村のほかの人たちも快く村の井戸水を農園の苗床に使うことを了承してくれました。また、近代化井戸を建設するにはセメントと混ぜるための水や砂利が必要なのですが、母親たちが率先して井戸建設職人の元へ水と砂利を運ぶ作業を引き受けてくれ、井戸作りに協力してくれています。

このように計画どおりにいかないこともありながらプロジェクト運営ですが、予定通りにいかなかったからこそ、母親たちが団結して水の確保、井戸の建設に協力していく姿に触れることが出来、結果的にはこれでよかったのかなと考えています。

現在苗の植え替えが始まっています。井戸の完成まで、あと少し！ 出来上がったときに彼女たちと喜びを分かち合うのが今から楽しみです。



農機具の配布



家畜対策の柵



苗床の水やり

## ◆ スーダン

Sudan

### 平成 21 年度国際ボランティア貯金寄附金援助事業 【南部スーダンにおける公衆衛生環境改善支援事業】

北バル・アル・ガザール (Northern Bahr El Ghazal) 州、アウェイル・イースト (Aweil East) 郡 のマルワルコン、ワンジョック、マドール市場においてトイレ、井戸、ゴミ箱の設置と衛生管理意識の向上による、市場の衛生環境改善を目的に実施した本事業は平成 21 年 12 月に終了しました。現在は事業終了後、市場の事業者や利用者がワークショップ等で学んだことを活かし、継続的に市場の衛生管理や設備利用状況のモニタリングを実施しています。

#### 事業概要

3つの市場においてトイレ、井戸、ゴミ箱の設置や公衆衛生指導を実施。

**事業期間**：2009 年 5 月～12 月

**対象地域**：北バル・アル・ガザール (Northern Bahr El Ghazal) 州、アウェイル・イースト (Aweil East) 郡  
マルワルコン、ワンジョック、マドール市場

**対象者**：3つの市場 (マルワルコン、ワンジョック、

#### 参加者の声



#### Mr. Mel Tong Mel マドホール市場 衛生委員会メンバー

井戸が壊れてしまった際には、きちんと修理されているか、コミュニティ内で協力して確認していかなければならないと認識しています。

井戸を柵で囲ったり、きれいに掃除をするといった維持管理は私たち自身で担当していきます。トイレは、2日ごとに掃除を行い、使ったあとには、ハエが入り込んだり、匂いが外に出してしまわないように、ドアを閉めるよう、気をつけます。トレーニング、ワークショップ参加者は、衛生に関する知識を得ました。今後は、自身で習った知識を日々の生活の中で活用していきます。この知識は、参加者を通して参加できなかったコミュニティメンバーにも伝えられていってほしい。キャンペーンでは、市場利用者はごみは捨てたままにせず、処理をすることを学びました。ごみが放置された環境は、病気が蔓延する温床になってしまうからです。きれいな環境を保つことは、病気を防ぐ一番良い方法だと思います。また、市場利用者は、ごみは市場の外に廃棄されるべきだということも学びました。

市場のごみは焼却処理され、家庭でもごみを焼却処理するようになるでしょう。



モデル集団農園事業が展開されているニジェル。気候の影響や家畜の進入、そして水の確保などの問題に見舞われながらも、その都度対策を練り、お母さんたちの作業は着々と進んでいます。

## ニジェルにエールを

毎日、朝から晩まで農園で働くお母さんたちにエールを送りませんか？

作業に必要とされている農具を、皆さまからのメッセージと共に届けるご支援のご案内です。2000円のご支援で、農具セット(クワ、水タンク、ジョウロ、ござ、蚊帳、種)が購入できます。クワやジョウロにはご支援いただいた方のお名前を施し、農具セットの配布時には皆さまからのメッセージをカードにして手渡します。皆さまからのエールが、ニジェルのお母さんたちの勇気となり、明日への励みとなります。ご協力、お願いいたします。

\*お名前 \*ご連絡先(eメール、お電話番号等) \*現地へのメッセージ \*農具セット数 をeメール、FAX、郵送等で下記までお送りください。

申込・問合せ先:

特定非営利活動法人 アムルトジャパン

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北3-8-12 フデノビル101号 Eメール info@amurt.or.jp FAX: 03-3338-3544

郵便局からお振込の場合

郵便振替口座: 00140-7-613-902

振込先名義: アムルト ジャパン

銀行からお振込の場合

銀行振込口座: 三菱東京UFJ銀行 銀座通支店 (普)1231263

口座名義: 特定非営利活動法人 AMURT Japan

**会員募集中** アムルトジャパンの活動は、皆様のご支援、ご協力に支えられています。

<会員種類>

個人正会員: 年会費5,000円

個人賛助会員: 年会費3,000円

法人・団体正会員: 年会費50,000円

法人・団体賛助会員: 年会費30,000円

寄付は一口1,000円から受付けております。

\*個人正会員は活動に意見を反映できます。また、アムルトジャパンより定期的に活動のご報告をさせていただきます。

会員登録、ご寄付ご希望の方は、下記必要事項をご記入の上、eメール(membership@amurt.or.jp)または申込用紙をダウンロードの上、郵送またはFAXでお送りください。

<必要記載事項>

\*お名前 \*郵便番号 \*ご住所 電話番号 \*eメールアドレス \*会員種類(ページ上部「会員種類」をご参照)

ご寄付回数(ご寄付の場合) ご意見、ご要望など \*ニュースレター配信のご希望 \*印は必須項目です。

個人情報の取り扱いについて

送信された情報は厳重に管理いたします。なお、郵送やFAX(03-3338-3544)からでもお申込になれます。